

学 校 教 育 目 標	1 進んで学ぶ生徒 2 心豊かな生徒 3 心身共に健康な生徒
目 指 す 学 校 像	力がつく学校 力のある学校 感動いっぱい 与野南中 ～生徒・教職員・保護者・地域～
重 点 目 標	1 基盤となる生活面の安定と学びの自律化と個別最適化 2 生徒一人ひとりと関わる生徒指導と教育相談の充実 3 地域とともにある学校づくりの推進 4 安心・安全の保障と学校事故の防止 5 教職員の持続可能な働き方と資質の向上

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標							実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	【学びの質の向上に関する取組】 （現状） ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査において、国語・数学・英語の、全国、市平均と比べ、概ね良好である。考えたり表現したりすることにも積極的である。 （課題） ○「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」の研究を進捗させ、本発表すること。基礎・基本の徹底、既習事項を活用して思考を深めさせ、学び方の学びの両立もまた課題である。	・個別最適な学びの実践と、 学びの自律化	①知識・理解の定着・向上と学習の習慣化のため、教科ごとにテストの復習を行う。 ②研究推進委員会を中心として定期的に教科部会を実施し、TDL、リーディングDXの取組について全教科で協議、改善を進める。	①毎回テストの復習を行い、本テストとの結果の定着度を比較したか。 ②各教科でTDLを導入し、リーディングDXの活用し、探究的な学びを意識したか。				
		・GIGAスクール構想を活用したアクティブ・ラーニングの推進	①安全・安心のもとで発言できる雰囲気醸成するため、学級や教科における話し合い活動を充実させ、目的意識と当事者意識をもった思考、活動を経験させる。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向け、デジタル教科書やICT機能を活用した授業により、生徒の学び方の学び改善につなげる。	①協働的な学びとしての話し合い活動を学級で行事に合わせて1本、各授業で学期に3本以上実施する。 ②学校評価「自分で考えたり、周囲と話し合ったりしている。」の項目で肯定的な回答が生徒95%以上となったか。				
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 （現状） ○多くの生徒に落ち着きが見られ、問題行動はほとんどない。地域・家庭の教育力もあって、見守り・見守られ意識が高い。学年が進むほど休みがちな生徒が多くなる傾向にある。 ○Solarの一むやオンライン等を利用している生徒が、学年が進むほど多くなる傾向にある。 （課題） ○教職員の生徒に係る意識は高いが、対応の甘さを感じられるときがある。 ○個別の状況を把握し、関係機関との連携を含め、しっかりと対応する必要がある。	・生徒一人ひとりの人格を尊重した生徒指導の充実	①毎学期心と生活のアンケート後の個別面談や適時適切な支援・相談により、いじめや課題の早期発見、早期解決に繋げる。 ②生徒指導の充実のため、生徒指導委員会と教育相談委員会は計画的に活動し、組織的な対応を行う。	①生徒一人ひとりを大切にし、悩みや相談、課題等に対し、誠実、迅速に、組織で対応できたか。 ②生徒指導委員会と教育相談委員会は中心・指導的な立場で活動ができたか。 ③学校評価において、肯定的な回答が生活面の項目で生徒90%以上、保護者85%以上、生徒指導の項目について教職員から88%以上となったか。				
		・生徒一人ひとりによりそった教育相談の充実	①Solarの一むの組織的な運営による多様な生徒への適切な支援を行う。 ②Solarの一む、オンラインの利用については、学期ごとに生徒、保護者と面談し、対応、学期の目標等を決めて支援を行う。	①生徒、保護者、教職員の連帯のもと、個々の学びを検討し、適切な支援をしたか。 ②学校評価において、相談等の項目で肯定的割合が、生徒90%以上、保護者80%以上、教育相談の項目について教職員から90%以上となったか。				
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 （現状） ○学校運営協議会も7年目を迎え、生徒が地域で活躍する場面も多くなってきた。また、PTAや後援会、育成会からの応援や肯定的な声も多く聞かれる。 （課 題） ○学校運営協議会の中で、地域と生徒と一緒に活動することについての十分な熟議を行う。熟議に生徒会や教員が参加できる場を設定する。 ○学校からの情報発信に加え、普段の学校を実際に目にする機会を多く設け、地域・学校間交流の活性化を進める。	・学校・家庭・地域で共に活動するコミュニティ・スクールの充実	①地域の方々からの学校理解を深め、関わりを多くするために、新たな取組を創出する。 ②学校教育の一貫性を担保するために中学校区小学校との連携を強化する。	①学校運営協議会の前に十分な準備を行い、熟議に生徒会本部役員や教員が参加できたか。地域清掃活動等を実施できたか。 ②児童の把握のための兼務教員派遣と小学校の情報共有ができたか。校区4校校長会を定例化できたか。				
		・たよりやHP、安心メール等を活用した発信と教育活動参観の機会設定	①学校HPの定期的な更新や、毎月のたより等により、学校からの情報発信を積極的に行う。 ②学校運営協議会の様子を知らせるC・Sだよりを発行し、学校・保護者・地域が一体となった活動をする。 ③学校教育活動の参観、公開を適宜実施する。	①学校評価の情報発信の項目で保護者肯定的割合が87%以上となったか。 ②「C・Sだより」を学校HPにアップし、活動を地域へ伝えることができたか。 ③毎学期、保護者の学校への来校機会（南中OS）を設定できたか。				
4	【教育環境の整備に関する取組】 （現状） ○毎月の安全点検により施設・設備の安全点検を遺漏なく行い、迅速な修理にあたっている。 ○体罰・暴言・不適切な指導の発生については昨年度は1件、指導にあたっての教職員の言動について保護者からの指摘が2件あった。 ○SNSに関わる生徒指導が4件発生した。 （課題） ○教職員の安全に対する意識は高いが、詰めの甘さを感じられるときがある。 ○SNSについては多くの者が安全意識を高く持っているが、しっかりと対応する必要がある。	・教職員の安全に対する意識の向上と実践	①会計事故防止のため、学年会計で全年統一様式のものを使用し、監査も定例化する。 ②安全点検を定期的に実施し、併せて学期ごとに全体の点検を定例化する。 ③ハラスメント防止と不適切指導未然防止のための研修会を実施する。	①会計事故の未然防止を具体的にを行い、遺漏なく監査報告に至ったか。 ②月1回の安全点検と学期ごとに全体の点検を行えたか。問題箇所への即応をしたか。 ③職員会議、校内研修会等の機会にハラスメント防止の研修を実施できたか。				
		・生徒を取り巻く環境の安心・安全の確保	①特にSNS等に関わる生徒指導の未然防止のために、警察主導の安全教室やSNS安全教室等を実施する。 ②弁護士招聘による講話やいじめ等の未然防止のために、必要に応じた全校集会や学校だよりによる情報発信、即時対応を行う。	①警察主導の安全教室やSNS安全教室等を実施したか。問題発生時に直ちに対応したか。 ②「いじめ防止」に取り組み、周知・徹底したか。突発的事象にも集即座に対応したか。案件の超越えは防ぐことができたか。				
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 （現状） ○市委嘱の研究「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」と文科省のリーディングDXの研究に取り組む。TDLも含めた授業力アップに学校を挙げて取り組む。 ○教員の在校時間数はICT利用により減少した。多忙感は相変わらずであるが、多くの教職員は職場環境を肯定的に受け止めている。 （課題） ○「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」の取組強化しつつ、リーディングDXを含めた研究を進める。 ○教職員の計画年休の取得を促進する。	・教職員の資質の向上に関する取組	①研究の本発表に向け、TDLを取り入れた計画的な授業実践を行う。市教委、他小中学校、外部機関等との連携による研究体制整備を行う。 ②職員同士の縦横の繋がりに加え、個々の職員が外部の協力者や社会と繋がり、学ぶ機会を推奨する。	①研修会を月1回開いたか。「個別最適な学びと協働的な学びに関する指導方法の研究」に関わるTDLやリーディングDXを意識した実施できたか。 ②職員個々が計画した自己評価シートにおける「研修」が予定通りに進められたか。				
		・教職員のワーク・ライフ・バランスの推進	①疲労回復と視野を広げるための機会とするために、計画年休の取得を促進する。 ②働き方改革の取組の一つとして、関係小学校と同様に勤務時間までの電話対応やスクリレの導入をする。	①学年内で話し合い、計画的な年休取得とその間の体験の共有を行えたか。積極的なコミュニケーションによる危機等の早期発見と対応をしたか。 ②働き方改革の取組について、地域・保護者に情報を発信したか。				

